平成３１年度「全国学力・学習状況調査」結果分析

１　全国・東京都・江戸川区・本校の各教科における平均正答率　（単位　%）

	国語	算数
全国	63.8	66.6
東京都	65	70
江戸川区	62	67
本校	63.8	68

国語は全国平均と並び、江戸川区平均を超えました。算数は、全国平均、江戸川区平均を超えました。東京都の平均正答率に届くよう、学力向上に向けて授業改善を更に進めていくことが求められます。

国語

ア　正答数の分布（A 層～D 層）

	正答数	児童数(人)	割合(%)
A 層	13～14 問	12	9.3
B 層	11～12 問	32	24.8
C 層	８～10 問	46	35.7
D 層	０～７問	39	30.4

イ　正答率が都平均以下の問題（三例）

・漢字を書く問題では、３問中２問が全国平均を下回った。その中でも、同音異義語に関して、全国 41.9%に対して本校 33.3%と 8.6%も下回った。

・自分の考えを明確にし、まとめて書く記述式の問題においては、正答率が全国 28.8%に対し、本校 21.7%と 7.1%下回った。

・報告文で使われている資料がどのような目的で用いられているか、適切なものを選択する問題では、全国 71.2%に対し、本校 64.3%と 6.9%下回った。

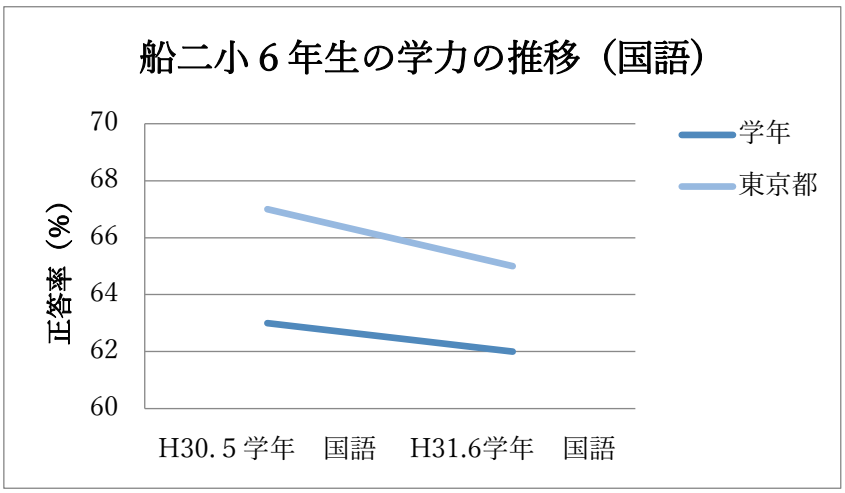
ウ　分析（本校児童が得意としていること、苦手としていること）

・文章の目的を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題では、全国平均を 6.3%上回った。全体的に読む問題は平均を上回っていた。

・全体として書く問題での課題が大きい。漢字においては、無解答は全国平均に比べて少ないが正答率が大きく下回っているので、誤答率が高いことが分かる。正確に覚えることや、文意や意味を理解して身に付けていくことが必要である。また、情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題も低かった。

以上の結果から、言語事項の習熟を図り、目的に応じて資料を活用し、文章構成を考えて書く指導を国語の授業や他教科でも積み重ねていくようにします。

エ　昨年度の都学力調査平均正答率との比較



昨年度は、都学力調査平均正答率より４％下回りましたが、今年度は３％下回りました。都平均まで、あとわずかという結果となりました。

算数

ア　正答数の分布（A 層～D 層）

	正答数	児童数(人)	割合(%)
A 層	13～14 問	16	12.4
B 層	11～12 問	42	32.6
C 層	８～10 問	38	29.5
D 層	０～７問	33	25.7

イ　正答率が都平均以下の問題（三例）

・２つの棒グラフから読み取れることを、４つの選択肢から答えを選び、かつ、自分の言葉で説明をする設問で、東京都 58.5%に対し、本校 48.1%と平均を 10.7%下回っていました。

・わり算のしくみを言葉で説明する設問で、東京都 33.6%に対し、本校 25.6%と平均を 8%下回っていました。

・わり算の商が何を意味するのかを問う設問で、東京都 51.5%に対し、本校 45%と 6.5%下回っていました。

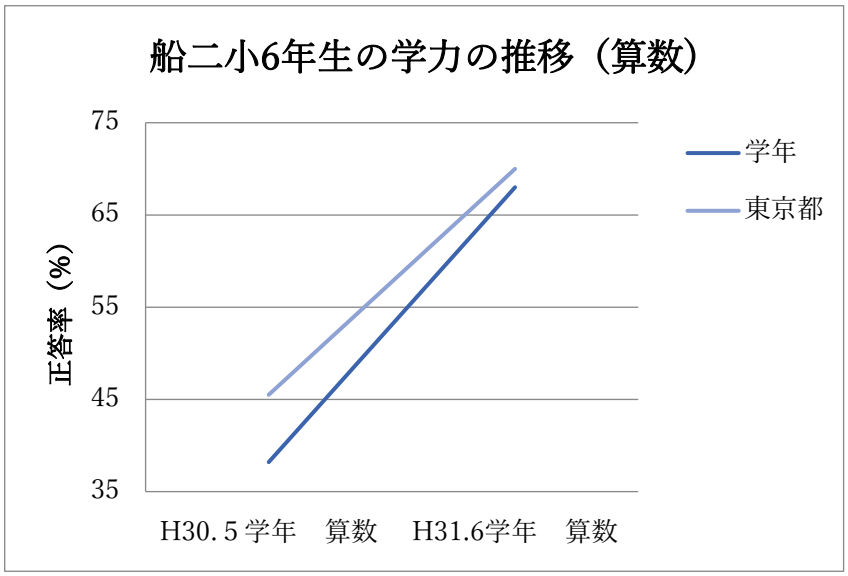
ウ　分析（本校児童が得意としていること、苦手としていること）

・全体としての正答率は東京都 70%に対し、本校 68%とほぼ同じような結果でした。(全国平均は 66.6%)

・イに記載したように、計算が苦手、図形が苦手というよりは、自分の言葉で説明するとか、複数の情報の読み取りといったような思考力が弱いと思われる。

以上のような結果から、複数の資料を読み取る問題に取り組んだり、授業中の発言で答えだけを言うのではなく、考えを説明する場面を増やしたりして、苦手とする面を改善できるような指導を行っていきます。

エ　昨年度の都学力調査平均正答率との比較



昨年度は、都学力調査平均正答率より７．３％下回りましたが、今年度は２％下回りました。都平均まで、あとわずかという結果となりました。